

令和4年度第2回長野県スポーツ推進審議会次第

日 時：令和4年8月26日（金）

午後1時から3時まで

場 所：長野県庁議会棟4階 402号会議室

1 開 会

2 あいさつ

3 議 事

(1) 審議事項

第3次長野県スポーツ推進計画の策定に向けた検討について【資料1～5】

・「施策の展開」について

（基本目標ごとに協議・意見交換）

(2) その他

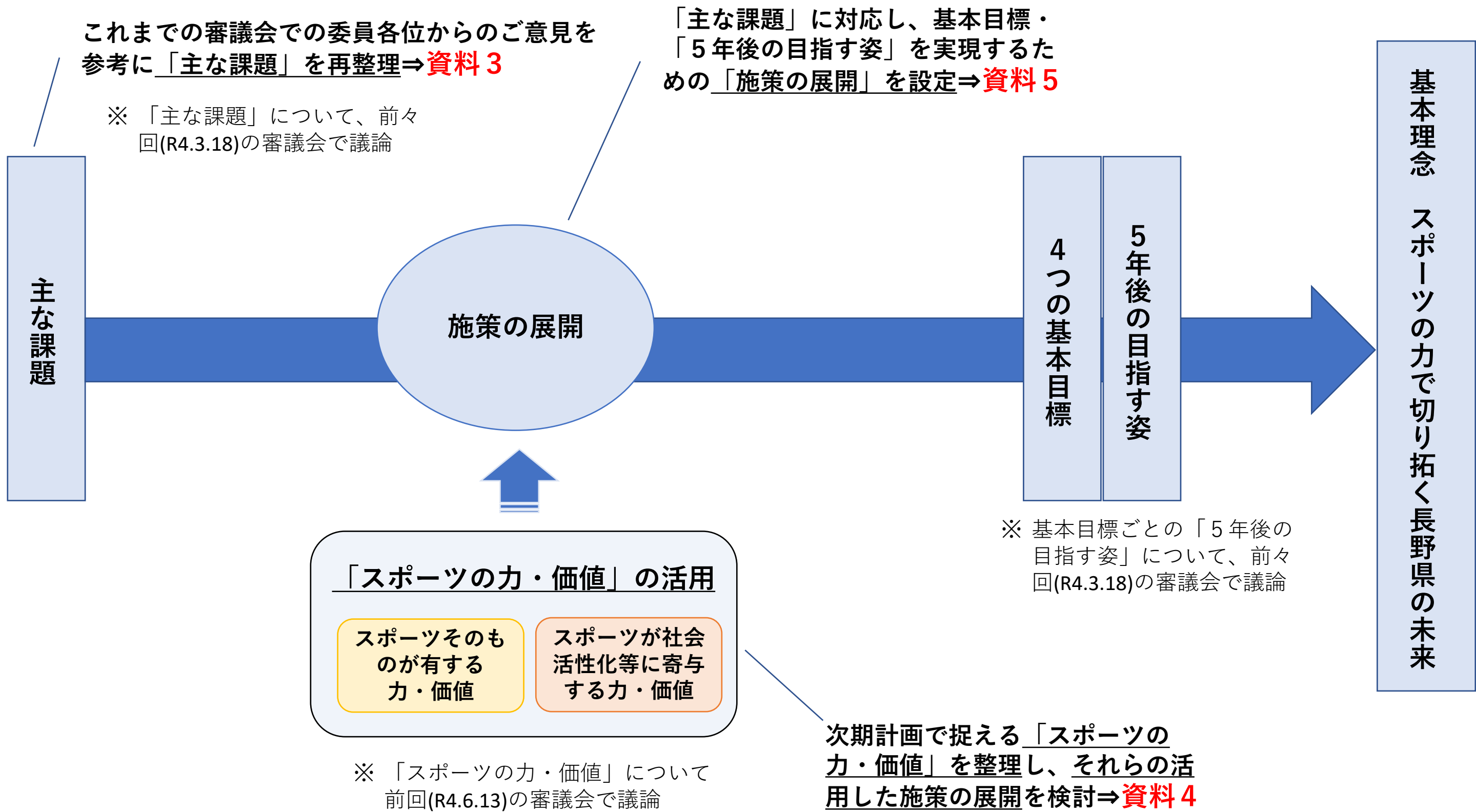
4 そ の 他

5 閉 会

第 3 次長野県スポーツ推進計画 策定スケジュール

| 年度 | 月日 | 内容 |
|-------|----------------------------|--|
| R3 | 3月18日 | ◆スポーツ推進審議会①【現行計画の振り返り、5年後の目指す姿の審議】 |
| R4 | 4月～6月 | 【施策展開の方向性案の作成】 ・ 審議会①での議論を踏まえ、施策展開の方向性案を検討 |
| | 6月13日 | ◆スポーツ推進審議会②【施策展開の方向性（スポーツの力・価値）の議論】 |
| | 6月～8月 | 【施策展開案・数値目標案の作成】 ・ 審議会②での議論を踏まえ、施策展開案、数値目標案を検討（関係各課へ照会） |
| | 8月26日 | ◆スポーツ推進審議会③【施策の展開の議論】 |
| | 8月～10月 | 【計画原案の作成】 ・ 審議会③での議論を踏まえ、計画原案を作成する |
| | 10月 | ◆スポーツ推進審議会④【計画原案の審議】 |
| | 11月 | 【計画原案の修正】 ・ 審議会④での議論を踏まえて、計画原案を修正 |
| | 11月～ | 【教育委員会定例会】 ・ 計画原案の提出 |
| | 12月～1月 | 【計画案に対するパブリックコメントの実施】 ・ 原則30日以上 |
| 2月～3月 | 【教育委員会定例会、部局長会議】 ・ 計画決定 | |

2



1 子どもの運動・スポーツ機会の充実

これまでの審議会における主なご意見

- 日常的に運動をしない子どもが増えている。子どもの体力向上のためには、遊び感覚で運動を好きになってもらうような取組が必要である。
- タブレット学習の普及により、休み時間も教室でタブレットを使う子どもと校庭に出て遊ぶ子供の二極化が見られる。日常的に体を動かす機会が減る子どもが増えないように注意が必要。
- 小・中学生のような身長や体重差が大きい年代が年度で区切った体力テストを実施することは運動嫌いを生む可能性があり、テストの実施の仕方に工夫が必要である。
- スポーツには子どもの自己肯定感を高めたり、自信の獲得に大きく貢献する力があるので、子どもの成長曲線にあった評価の仕組みが重要である。
- クラスのすべての子どもたちを1人の担任の先生が指導するのは大変。体育専科の先生（または補助の先生）をつけて、運動が得意な子どもとそうでない子どもを別々に指導できるような体制があるとよい。
- 子どもたち自身が非常に広い多様性を持っており、それに対して対応できるだけの環境を整備することが必要である
- 部活動の地域移行が叫ばれているが、ここ1~2年で簡単にどうにかできる問題ではない。総合型地域スポーツクラブや県内プロスポーツチーム、スポーツ少年団、市町村などの各組織と連携しながら、小中高一貫したシステムを構築することができれば、中学や高校の部活から移行していく受皿になり得るのではないか。
- 子どもたちが誰でも、経済的な格差があってもスポーツに親しめるような環境を作り出すことが必要
- 子どもの時期にどう運動・スポーツに向き合うかは、知特体のバランスを育み、生涯スポーツに親しむうえで重要であり、「生きる力」に直結するものである。
- スポーツをきっかけとして親子のコミュニケーションの活発化するなど、体を動かすこと以外の役割もスポーツにはある。そういったスポーツの価値をスポーツに関わりのない家庭にも周知するような取り組みが必要である。
- 子どものうちから健常者と障がい者が一緒になってスポーツをできる機会を経験させることで、多様性の理解や運動・スポーツ機会の充実につながる。
- コロナ禍においても子どものスポーツ活動が保障されるよう工夫が必要である。

主な課題

- **子どもの体力向上**
- **運動をする子どもとしない子どもの二極化**
- **運動嫌いを生まないための工夫**
- **運動部活動（少子化により学校単位での活動が困難、教員の負担、公立中学校の運動部活動の地域移行等）**
- **子どもの地域スポーツ環境の整備**
- **運動・スポーツをすることの意義の啓発**
- **障がいのある子どものスポーツ環境の整備（共生社会の実現）**
- **感染症対策とスポーツ活動の両立**

ω

2 生涯を通じたスポーツ機会の充実

これまでの審議会における主なご意見

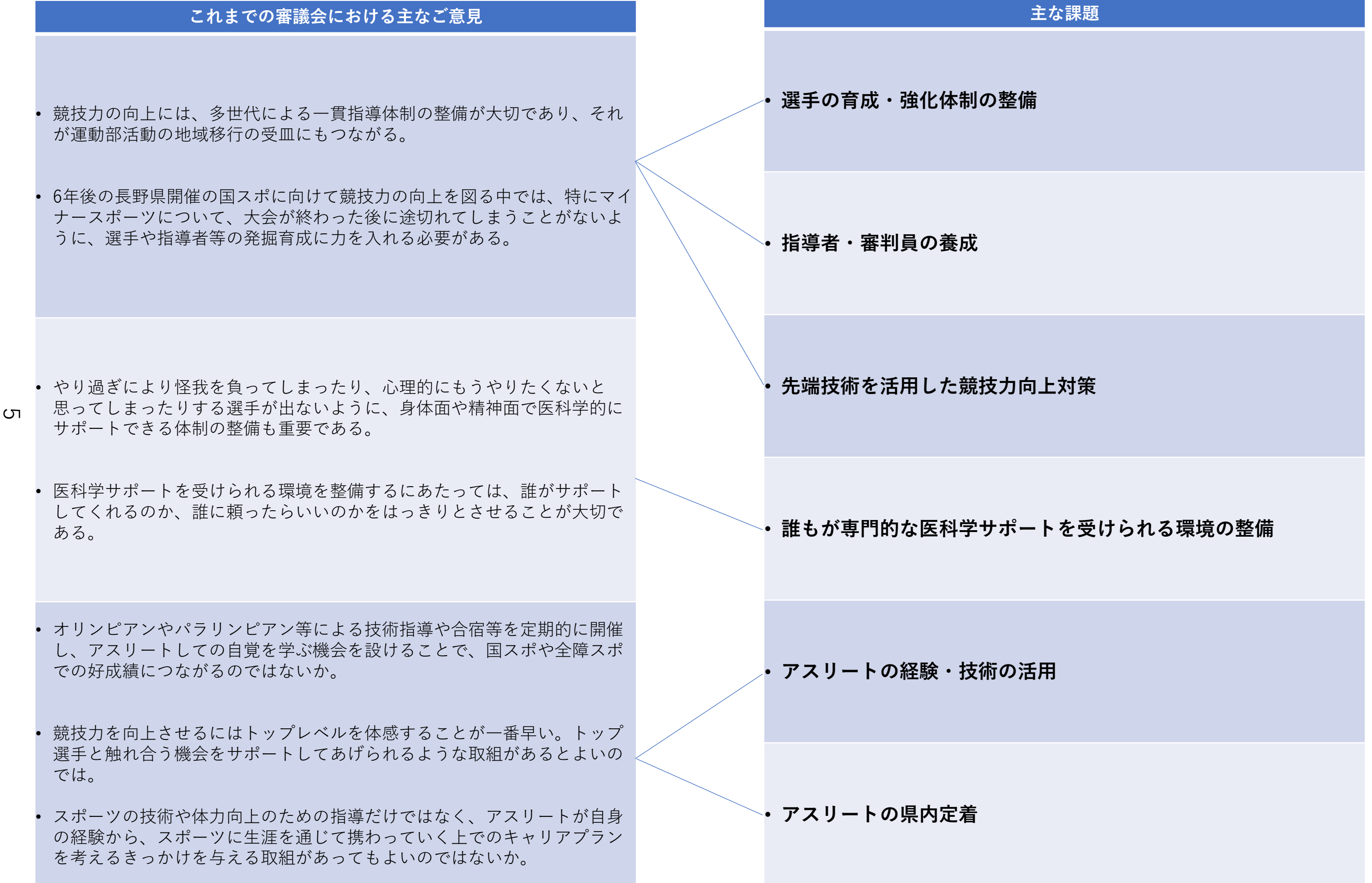
- スポーツをやりたいと思っている人がスポーツに参加できる機会との出会いが少ないのが現状。受皿となるスポーツクラブや地域スポーツ推進委員と連携して、機会の創出や周知を推進することが重要である。
- 部活動の地域移行等、地域スポーツクラブの力は今後より一層重要になってくる。地域スポーツクラブへの支援に力を入れてほしい。
- スポーツ推進委員が地域のスポーツ課題にしっかりと関わるような体制を、各市町村と協力して作ることが大切である。
- 総合型地域スポーツクラブの役割や期待が高まる中で、ほとんどクラブは資金的に余裕がなく、専属の指導員を配置できないのが現状である。今以上に行政と総合型地域スポーツクラブが連携し、情報共有をしながら取り組んでいく必要がある。
- 子育て世代がどうスポーツに参加できるかは課題である。例えば、地域の子育て世帯が一斉に集まるようスポーツイベントがあれば、誰かが見ているという安心感から、親もスポーツに参加することができるのではないか。
- 健常者と障がい者が一緒にスポーツを楽しむことができ、なおかつ気軽に誰でも安心して利用できるような施設を目指してほしい。
- どこに行けば障がい者スポーツを楽しむことができるのか等、障がい者スポーツについて多くの人に知ってもらい、ジュニア世代の発掘と育成を進める必要がある。
- 例えばボッチャ教室などの障がい者スポーツのイベントをやるにしても、会場までの送迎の人手が足りず、資金にも余裕がないため、少ない人数でボランティア送迎している現状である。このようなアクセシビリティの問題をどう克服するかが課題である。
- 障がい者も健常者も一緒にスポーツを楽しめるよう支援することが、生涯を通じたスポーツ機会の充実につながる。
- コロナ禍においてもスポーツ活動が保障されるような工夫が必要である。

主な課題

- **スポーツ参画人口の拡大（「する」「みる」「ささえる」スポーツ）**
- **身近な場所でスポーツに親しめる環境の整備**
- **地域スポーツクラブの活性化**
- **働く世代・子育て世代のスポーツ参加**
- **誰もが安全に利用できるスポーツ施設の整備（ユニバーサルデザイン、適切な維持管理、施設の長寿命化等）**
- **障がい者スポーツの参加機会の拡大と理解促進（共生社会の実現）**
- **感染症対策等の制限下におけるスポーツ活動**

4

3 全国や世界で活躍する選手の育成



57

4 スポーツの持つ力の多面的活用

これまでの審議会における主なご意見

- 世界で活躍する選手を育てること、またそれを見て感動を享受することはスポーツのすばらしさであり、スポーツをしてない人も感じ取れるものである。
- 東京パラリンピックの影響で車いすバスケットをやりたいという人からの問い合わせが増えてきた。このようなオリパラの良い影響をどう生かしていくかが重要である。
- 開催から20年以上経った今も、長野オリンピック・パラリンピックの記憶が色あせないように、スポーツは時代を超えていくものである。6年後の長野国スポも後世に残るものとして大事にしていきたい。
- スポーツには、子どもから大人、健常者から障がい者まで、スポーツを中心に様々な主体をつなぎ合わせる力がある。そのつなぎ合わせる役割を行政が果たしていくべきである。
- コロナ禍において、子どもからお年寄りまで様々な世代のスポーツ活動が制限を受けたが、健康に生活をするためにはスポーツは欠かせないものであり、スポーツ活動を保障していく工夫が必要である。
- プロスポーツ選手と県民との関わりを増やすことで、「するスポーツ」としても、エンターテインメントとして「みるスポーツ」としても、スポーツに参画する機会を増やすことにつながる。

主な課題

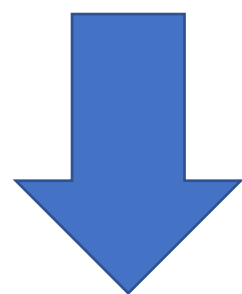
- **スポーツ大会・スポーツ合宿の誘致等を通じた地域活性化**
- **オリンピック・パラリンピックや国スポ・全障スポ等大規模大会のレガシーの継承**
- **スポーツを通じた人々の交流促進**
- **健康長寿社会に向けた運動・スポーツによる健康づくり**
- **プロスポーツとの連携**

| 基本理念 | 基本目標 | 主な課題 | 施策の展開 |
|-------------------|---------------------------|--|--|
| スポーツの力で切り拓く長野県の未来 | 基本目標1 子どもの運動・スポーツ機会の充実 | <ul style="list-style-type: none"> 子どもの体力向上 運動をする子どもとしない子どもの二極化 運動嫌いを生まないための工夫 運動部活動（少子化により学校単位での活動が困難、教員の負担、公立中学校の運動部活動の地域移行等） 子どもの地域スポーツ環境の整備 運動・スポーツをすることの意義の啓発 障がいのある子どものスポーツ環境の整備 感染症対策とスポーツ活動の両立 | 1-1 幼児期からの運動の習慣化 1-2 学校体育・運動部活動等の充実 1-3 子どもを取り巻く地域スポーツ環境の充実 |
| | 基本目標2 生涯を通じたスポーツ機会の充実 | <ul style="list-style-type: none"> スポーツ参画人口の拡大 身近な場所でスポーツに親しめる環境の整備 地域スポーツクラブの活性化 働く世代・子育て世代のスポーツ参加 誰もが安全に利用できるスポーツ施設の整備（ユニバーサルデザイン・適切な維持管理・施設の長寿命化等） 障がい者スポーツの参加機会の拡大と理解促進（共生社会の実現） 感染症等の制限下におけるスポーツ活動 | 2-1 ライフスタイルに応じたスポーツ活動の推進 2-2 地域のスポーツ環境の整備 |
| | 基本目標3 全国や世界で活躍する選手の育成 | <ul style="list-style-type: none"> 選手の育成・強化体制の整備 先端技術を活用した競技力向上対策 指導者・審判員の養成 誰もが専門的な医科学サポートを受けられる環境の整備 アスリートの経験・技術の活用 アスリートの県内定着 | 3-1 選手の強化、指導者養成による競技力向上 3-2 スポーツ界の好循環の創出 |
| | 基本目標4 スポーツの持つ力の多面的活用 | <ul style="list-style-type: none"> スポーツ大会・スポーツ合宿の誘致等を通じた地域活性化 オリンピックや国スポ・全障スポ等大規模大会のレガシーの継承 スポーツを通じた人々の交流促進 健康長寿社会に向けた運動・スポーツによる健康づくり プロスポーツとの連携 | 4-1 スポーツツーリズムの推進による地域経済の活性化 4-2 スポーツを通じた人々の交流促進 4-3 プロスポーツとの連携・協働の推進 4-4 運動・スポーツを通じた健康長寿社会の実現 |

第3次長野県スポーツ推進計画で「スポーツの力・価値」に着目する理由

✓ 基本理念「スポーツの力で切り拓く長野県の未来」の実現に向けて、「スポーツの力・価値」について改めて確認したうえで、「スポーツの力・価値」を活用し、更に高めていくような施策に取り組むため。

新型コロナウイルスの影響の下、あらゆる世代のスポーツ活動が大きな制限を受けたことで、体力の低下やストレスの増加、スポーツを核にした地域における交流の不足など、様々な悪影響を及ぼした一方で、その反射的な効果として、スポーツが日々の生活や社会に活力を与えるなど優れた力や価値を持っていることが再確認された。
⇒「スポーツの力・価値」を再認識してもらうチャンス。



- 国の第3期スポーツ基本計画を参考に、「スポーツの力・価値」を「スポーツそのものが有する力・価値」と「スポーツが社会活性化等に寄与する力・価値」の2つに分類。
- さらに、直感的・視覚的に「スポーツの力・価値」が伝わりやすくするため、前回の審議会（R4.6.13）での議論を踏まえて、「スポーツの力・価値」を21項目に整理した。（下図のとおり）
- これらの「スポーツの力・価値」を活用し、更に高めていくような「施策の展開」を設定する。

第3次長野県スポーツ推進計画で捉える「スポーツの力・価値」

| ①スポーツそのものが有する力・価値 | | | ②スポーツが社会活性化等に寄与する力・価値 | | |
|-------------------|--------------|--------------|-----------------------|-----------|------|
| 体力向上 | 心身の健全な発達 | 他者を尊重し協働する精神 | 地域活性化 | 地域社会のつながり | 共生社会 |
| 楽しさ・喜び・自発性 | 生きる力（人間力）の向上 | 自己肯定感・達成感 | 健康長寿社会 | 経済発展 | 交流促進 |
| コミュニケーション | Well-being | 健康増進 | 魅力発信 | 好循環 | レガシー |
| 感動・一体感 | 夢・憧れ | | 異分野との連携 | | |

現行計画と同じ項目名の中で新たに掲載する「施策の展開」がある場合

次期計画で新たな項目を立てて「施策の展開」を掲載する場合

| 基本目標 | 項目 | 施策の展開(方向性) | 活用する主な「スポーツの力・価値」 | |
|----------------------------|--------------------------------------|-------------------------------------|-------------------|--------------|
| ① 子どもの運動・スポーツ機会の充実 | (1) 幼児期からの運動の習慣化 | ・幼児期からの運動の習慣化 | 心身の健全な発達 | 楽しさ・喜び・自発性 |
| | | ・長野県版運動プログラムの普及 | | |
| | | ・指導者研修の充実 | コミュニケーション | 地域社会のつながり |
| | | ・先進好事例の市町村への普及定着支援 | | |
| | (2) 学校体育・運動部活動等の充実 | ・体育・保健体育授業の支援 | 体力向上 | 楽しさ・喜び・自発性 |
| | | ・学校における体力向上に向けた取組の促進 | | |
| | | ・適正で効果的な運動部活動の推進 | 生きる力 | 自己肯定感・達成感 |
| | | ・学校体育・スポーツ活動の安全性の確保 | | |
| | | ・教員研修の充実 | | |
| ・障がいのある児童生徒に対する支援 | | | | |
| (3) 子どもを取り巻く地域スポーツ環境の整備 | ・子どものスポーツ環境の充実 | 楽しさ・喜び・自発性 | 地域社会のつながり | |
| | ・公立中学校の運動部活動の段階的な地域移行 | | | |
| | ・魅力ある自然体験学習を安全に実施するための研修の充実 | 共生社会 | 交流促進 | |
| | ・親子参加型スポーツ体験の充実 | | | |
| | ・障がいのある子どもの運動機会の充実と障がい者スポーツに対する理解の促進 | | | |
| ・スポーツを通じた共生社会づくり | | | | |
| ② 生涯を通じたスポーツ機会の充実 | (1) ライフスタイルに応じたスポーツ活動の推進 | ・ライフスタイルに応じた「するスポーツ」の普及 | 楽しさ・喜び・自発性 | 他者を尊重し協働する精神 |
| | | ・青壮年期のスポーツ活動の促進 | | |
| | | ・高齢期のスポーツ活動の促進 | 健康増進 | 感動・一体感 |
| | | ・「みるスポーツ」の普及 | | |
| | | ・「ささえるスポーツ」の普及 | | |
| | | ・長野県の特徴を活かしたスポーツの推進 | | |
| | ・障がい者のスポーツ参加機会の拡大と理解促進 | | | |
| | (2) 地域のスポーツ環境の整備 | ・スポーツ推進委員の活動支援 | Well-being | 地域社会のつながり |
| | | ・総合型地域スポーツクラブ等の育成と安定運営に向けての支援 | | |
| | | ・地域スポーツ拠点のマルチ化 | 共生社会 | 交流促進 |
| | | ・地域スポーツ指導者の養成 | | |
| | | ・スポーツにおける安全の確保 | | |
| | | ・「長野県スポーツ医科学ネットワーク」の構築 | | |
| | | ・スポーツイベントの充実 | | |
| ・スポーツ施設の充実・維持管理 | | | | |
| ・県立武道館を核とした武道振興 | | | | |
| ・地域における障がい者スポーツ環境の整備 | | | | |
| ・スポーツを通じた共生社会づくり | | | | |
| ③ 全国や世界で活躍する選手の育成 | (1) 選手の育成強化・指導者養成による競技力向上 | ・2028年の信州やまなみ国スポに向けた競技力向上対策 | 体力向上 | 夢・憧れ |
| | | ・指導者の養成と確保 | | |
| | | ・ジュニア選手の発掘・育成の推進 | 地域社会のつながり | レガシー |
| | | ・女性アスリートの支援 | | |
| | | ・一貫指導体制の充実 | | |
| | | ・マルチサポートの推進 | | |
| | | ・冬季競技の強化 | | |
| | | ・トップアスリートとの交流による競技意欲の喚起 | | |
| | | ・県立武道館を核とした武道強化 | | |
| | | ・大学や企業との連携 | | |
| | | ・先端技術を活用した競技力向上対策 | | |
| | ・「長野県スポーツ医科学ネットワーク」の構築 | | | |
| | ・障がい者アスリートの養成 | | | |
| | (2) スポーツ界の好循環の創出 | ・県内を拠点とした競技活動の支援 | 夢・憧れ | 魅力発信 |
| ・アスリートとの交流による県民スポーツ参加意欲の高揚 | | 好循環 | レガシー | |
| ④ スポーツの多面的活用 | (1) スポーツツーリズムの推進による地域経済の活性化 | ・国際大会の事前合宿誘致を通じた地域経済の活性化 | 地域活性化 | 地域社会のつながり |
| | | ・国際大会等の開催を通じた人々の交流 | 経済発展 | 交流促進 |
| | (2) スポーツを通じた人々の交流促進 | ・オリンピック・パラリンピック開催を契機とした韓国・中国との交流の継続 | 交流促進 | 魅力発信 |
| | | ・信州ならではのスポーツの魅力発信 | レガシー | 異分野との連携 |
| | | ・信州やまなみ国スポ・全障スポを通じた地域の活性化 | | |
| | (3) プロスポーツとの連携・協働の推進 | ・プロスポーツとの連携事業の推進 | 他者を尊重し協働する精神 | 感動・一体感 |
| | | ・プロスポーツとの連携事業の推進 | 地域活性化 | 魅力発信 |
| | (4) 運動・スポーツを通じた健康長寿社会の実現 | ・運動・スポーツを通じた健康づくりの推進 | Well-being | 健康増進 |
| ・運動・スポーツを通じた健康づくりの推進 | | 健康長寿社会 | 魅力発信 | |

※太字下線部は現行計画からの修正又は追加箇所

| 1-1 幼児期からの運動の習慣化 | | | |
|---|--|---|--|
| ○活用し更に高めていく主な「スポーツの力・価値」 | | | |
| | 心身の健全な発達 | 楽しさ・喜び・自発性 | コミュニケーション |
| | | | 地域社会のつながり |
| 5年後(R9年度)の目指す姿 | 施策の展開 | | |
| | 方向性 | 取組内容 | 備考(追加・修正等の趣旨) |
| ・長野県版運動プログラムが普及し、体を使った遊びが好きな子どもが増え、屋内外で運動をする元気な子どもたちが増加している。 ・幼児期からの運動遊びに関する理解が広がり、県内各地で活発な取組が行われている。 | 幼児期からの運動の習慣化 | いろいろな遊びの中で、体を動かすことの楽しさを感じることができるよう、 親子運動遊びの普及と、地域での運動環境づくりの支援体制の強化 を支援します。 | 具体的な取組が分かるよう表現を修正 |
| | | 運動習慣の定着の必要性について、 休日の親子運動教室等を活用して 、保護者等へ周知していきます。 | 具体的な取組が分かるよう表現を修正 |
| | | 市町村が実施する乳幼児健診等の母子保健事業を通じて、乳幼児の心身の発達を促し親子のコミュニケーションを図る遊びの一環として、月齢に応じた身体活動について周知していきます。 | 乳幼児健診等の機会の活用に関する記載について、保健・疾病対策課での現状の取組をもとに、上記「運動習慣の定着の必要性…」の項目と分けて記載 |
| | 長野県版運動プログラムの普及 | 長野県版運動プログラムの活用が、幼稚園・保育所、学校、家庭や地域のクラブ等で進むよう、 研修講座や講師派遣等の一層の充実を図ります。 | 具体的な取組が分かるよう表現を修正 |
| | | 幼稚園・保育所、小学校に配布した長野県版運動プログラムDVDの活用を促進するとともに、家庭や地域のクラブに対しては、ホームページ上の動画の活用を呼びかけます。 | |
| | | 長野県版運動プログラムの 趣旨や運動内容、指導法が広がり 、各市町村やクラブ等で実践される「幼児期の運動プログラム」との連携が図れるよう研修の場を設け、 運動好きの子どもが育つ運動教室の実践を図ります。 | 取組内容の目的が明確になるように表現を修正 |
| 指導者研修の充実 | 子どもが楽しく運動に取り組み、体力やコミュニケーション能力等を高められるよう、体育センター等において指導者研修を実施します。 | | |
| 先進好事例の市町村への普及定着支援 | 幼児期からの一貫した体力向上策に取り組む市町村の先進事例・好事例を、他の市町村に発信し、その普及を図ります。 | | |
| 1-2 学校体育・運動部活動等の充実 | | | |
| ○活用し更に高めていく主な「スポーツの力・価値」 | | | |
| | 体力向上 | 楽しさ・喜び・自発性 | 生きる力(人間力)の向上 |
| | | | 自己肯定感・達成感 |
| ・運動が好きな子どもたちが増え、休み時間や放課後に体育館や校庭などで遊ぶ子どもたちが増えている。 ・ 効果的なICT活用によって、それぞれのニーズに応じて、データベース上の資料や動画をいつでも確認できる等、運動の技能差にかかわらず体育授業の充実が実現されている。 | 体育・保健体育授業の支援 | 個々の特性に応じた運動の楽しさ を感じる授業づくりを、生活における運動の大切さが実感できる健康教育との連携を図りながら推進します。 | 「個別最適な学び」の考え方を踏まえ表現を修正 |
| | | 効果的なICTの活用が広がり、様々な違いに関わらず運動の楽しさを追究できる学習の個性化や、次時の課題を自ら見出していく振り返り等の充実を通じて、子どもが主体的に学ぶ授業を推進します。 | 一人一台端末等を活用し、端末に自分の動画を蓄積し、自身の成長を確かめ自己肯定感を持つなど、効果的な活用方法を検討し広めていく必要がある。 |
| | | 各校のカリキュラムマネジメントを工夫し、 運動好きの割合が低くなる傾向にある中高生の女子 のニーズに応じた運動種目の教材化を進めるとともに、 運動の大切さを感じられる取組 の継続を推進していきます。 | 取組の対象と目的が明確となるように表現を修正 |
| | | 信州型コミュニティスクール等を活用した体育授業のサポート体制を構築します。 | |
| | | 県内で開催されるアスリート、 パラアスリート の競技会観戦を授業の一環として実施することを推進します。 | パラアスリートを明記 |
| | | 小学校における専科教員について、その効果を検証しながら、今後の配置について検討していきます。 | |

基本目標 1 子どもの運動・スポーツ機会の充実

※太字下線部は現行計画からの修正又は追加箇所

| 5年後(R9年度)の目指す姿 | 施策の展開 | | |
|--|---------------------|---|------------------------------------|
| | 方向性 | 取組内容 | 備考(追加・修正等の趣旨) |
| ・「長野県中学生期のスポーツ活動指針」に基づいて中学校の運動部活動が適切に行われ、より豊かな学校生活を送ることができている。 | 学校における体力向上に向けた取組の促進 | 2028年の信州やまなみ国スポ・全障スポの開催機運を活用し、運動好きな子どもを増やすとともに体力向上を目指します。 | 2028年に長野県で開催する国スポの愛称が決定したため修正 |
| | | 全ての児童生徒の生活の中に運動が存在するように、「体力向上プラン」や「一校一運動」に、日常的に運動が少ない児童生徒を対象とした取組の工夫を推進します。 | 取組内容の目的が明確となるように表現を修正 |
| | | 体力テストの結果を活用し、各校の成果と課題を把握した上で明確な目標を設定し、1校1運動を中心とした「体力向上プラン」を見直すPDCAサイクルを確立するとともに、ながのスポーツスタジアム等の運動機会の充実に努めます。 | 体力テストの結果の活用について、より具体的な表現となるように修正 |
| | | 小中学生の体力テストの結果を各市町村やスポーツ推進委員と共有することにより、各市町村での体力向上施策の修正、改善につなげるとともに、学校への支援体制の強化を推進します。 | 体力テストの結果の共有先に各市町村担当者を追加（現状と取組の整合性） |
| ・少子化の進行に伴い、学校単位での運動部活動の成立が困難な学校においても、学校間や市町村間、または地域のスポーツクラブ等との連携により、スポーツ活動機会が確保され、その団体での各種大会への参加も可能となっている。 | 適正で効果的な運動部活動の推進 | 「長野県中学生期のスポーツ活動指針」に基づく発達段階に応じた適正で効果的な活動を通して、運動好きで生涯にわたり運動に親むることができる子どもの育成を目指します。 | |
| | | 生徒の多様なニーズや運動の機会の少ない中学生や高校生等に対応するため、楽しくスポーツができ、複数種目を経験できる総合部活動等の設置といった取組を支援します。また、学校の実情に合った運動部活動の体制づくりの推進を支援します。 | 「部員数の減少に対応するために」から表現を修正 |
| | | 体育センターでの研修講座等により、発達段階に応じた適切な指導ができるよう指導力の向上を図ります。 | |
| ・国際大会や全国大会を目指す子どもたちの練習環境が整い、それぞれの目標に向けてひたむきに取り組む子どもが増えていく。 | 学校体育・スポーツ活動の安全性の確保 | 武道、水泳をはじめとする学校体育・スポーツ活動に対する指導者の安全意識を高めるため、体育センターや研究協議会等での研修を充実させ、安全で効果的な活動を推進します。 | 例示に水泳を追加（現状の取組との整合性） |
| | | 「頭頸(けい)部外傷事故発生時の対応フローチャート」をすべての関係者が共有し、事故が発生した際には、同フローチャートに基づいた適切な対応により、重篤事故の防止に努めます。 | |
| | | 高校生の冬山・春山での登山活動を安全に行うため、「登山部顧問等安全登山講習会」等において、「長野県高校生の冬山・春山登山における安全確保指針」の遵守・徹底を図ります。 | 具体的な取組が分かるように表現を修正 |
| | | 児童生徒の体育・スポーツ活動が安全に実施できるように、体育施設や用具の整備、メンテナンスを適切に行うよう支援します。 | |
| ・障がいのある子どもたちが、個々の障がいに応じた適切な運動指導が受けられ、障がいの有無にかかわらず一緒に運動遊びを楽しんでいる。 | 教員研修の充実 | 体育センター等における教員の研修機会を充実し、教員の指導力向上を図ります。 | |
| | 障がいのある児童生徒に対する支援 | 特別支援学校などにおいて、児童生徒の「個別の指導計画」に基づき一人ひとりのニーズや適性に応じた指導・支援の充実を図ります。 | |
| | | 障がいのある児童生徒とない児童生徒の「交流及び共同学習」において、ともに体育や運動を行うことにより交流を深める取組を推進します。 | |
| トップアスリートとの交流等を通じ、スポーツを志向できる環境づくりを推進します。 | | | |

※太字下線部は現行計画からの修正又は追加箇所

| 1-3 子どもを取り巻く地域スポーツ環境の充実 | | | | |
|---|---|---|---|------|
| ○活用し更に高めていく主な「スポーツの力・価値」 | | | | |
| | 楽しさ・喜び ・自発性 | 地域社会の つながり | 共生社会 | 交流促進 |
| 5年後(R9年度)の 目指す姿 | 施策の展開 | | | |
| | 方向性 | 取組内容 | 備考(追加・修正等の趣旨) | |
| <p>・地域のスポーツ活動やスポーツ少年団の活動に積極的に参加するなど、自ら様々なスポーツに挑戦し、スポーツを楽しむ能力・習慣が身についている。</p> <p>・子どもたちが仲間同士で、安全に自然体験活動ができる場所やスポーツ施設が身近にあり、屋内外で体を動かして楽しく遊ぶことができる環境が整っている。</p> <p>・親子で参加できるスポーツイベントなど、親子で楽しめる運動遊びの機会が充実し、スポーツを通じて親子の絆(きずな)が深まっている。</p> <p>・プロスポーツ大会、全国大会、世界大会等の様々なスポーツ大会が県内各地で開催され、応援や試合観戦など、スポーツをみて楽しんでいる子どもが増えている。</p> <p>・障がい者スポーツの体験会や障がい者アスリートとの交流会などが積極的に開催されている。</p> | 子どものスポーツ環境の充実 | <p>学校体育以外でも運動をしたい子どもや、運動習慣が身につけていない子どもなど、多様なニーズのある子どもの受け皿となるスポーツ少年団や総合型地域スポーツクラブ等の地域スポーツクラブの充実を図り、全ての子どもに運動機会を提供できる環境を整えます。</p> <p>2028年に開催する<u>信州やまなみ国スポ・全障スポ</u>への関心を高め、生涯を通して「する・みる・ささえる」スポーツの参加機会を増やし、運動の楽しさが得られるように努めます。</p> <p>体育センター、教育事務所等の実技指導、研修を充実し、子どものスポーツ活動を支える指導者を支援します。</p> <p>県立武道館を核として、武道団体や各地の武道施設と連携し、子どもたちが武道を観たり、体験する機会を提供します。</p> | <p>2028年に長野県で開催する国スポの愛称が決定したため修正</p> | |
| | <p>公立中学校の運動部活動の段階的な地域移行</p> | <p>新 運動部活動の段階的な地域移行に向けて、まずは休日の活動に重点を置き、地域を拠点としたスポーツ環境づくりを支援します。</p> | <p>少子化の進展、専門性のある指導者不足、部活動指導による教員の長時間勤務の問題等により、今まで学校が主体として担ってきた部活動の形態を見直し、地域が主体となる新たなスポーツ環境の整備を目指すことが必要となっている。</p> | |
| | | <p>新 運動部活動の段階的な地域移行に向けて、総合型地域スポーツクラブや地域における競技団体等の指導者の確保や質の向上を図るための取組を支援します。</p> | <p>地域が主体となり、安定した組織基盤とスポーツ環境を構築するために、地域に根差した指導者の確保が重要となる。また、子どもにとって魅力のあるクラブを目指す上で、指導者の指導力向上を推進する必要があるため。</p> | |
| | 魅力ある自然体験学習を安全に実施するための研修の充実 | <p>山岳総合センター等での研修講座等を通して、子どもが安全で楽しく野外活動ができるように指導者の研修を推進します</p> | | |
| | 親子参加型スポーツ体験の充実 | <p>休日などに親子で参加できるスポーツ機会を増やし、親子で楽しみながら運動するきっかけづくりと、子育て世代の生涯スポーツにつながる運動機会の提供を図ります。</p> | <p>親子の運動機会をきっかけとした、子育て世代のスポーツの実施について追加で記載</p> | |
| | | <p>県内で開催されるプロスポーツやパラスポーツ等の競技を親子で観戦し、スポーツについて親子で語り合うことによりスポーツ関心度を高めます。</p> | <p>パラスポーツを明記</p> | |
| | 障がいのある子どもの運動機会の充実と障がい者スポーツに対する理解の促進 | <p>全国障害者スポーツ大会に向け、開催機運の醸成に努め、本県選手が活躍できるよう選手の発掘・育成を行います。</p> | <p>選手の発掘・育成について明記</p> | |
| | | <p>様々なスポーツに親しむ機会を提供するため、障がいのある子どもを対象とした、スポーツ体験会を充実します。</p> | <p>取組の目的が明確となるように表現を修正</p> | |
| | | <p>障がいのある子どもの保護者を対象にスポーツを行う意義の啓発を行い、保護者のスポーツに対する意識改革を図ります。</p> | <p>取組の目的が明確となるように表現を修正</p> | |
| | | <p>障がいのある子どもがスポーツをする際に、障がいの程度や種類に応じて必要な配慮がなされるよう、関係者や保護者の障がいに対する理解を促進します。</p> | | |
| スポーツを通じた共生社会づくり | <p>障がいのある子どもとない子どもと一緒にスポーツできる環境づくりを推進し、共生社会の実現を加速させます。</p> | <p>取組の目的が明確となるように表現を修正</p> | | |
| | <p>小中学生・保護者を対象に、障がい者スポーツの体験会を開催し、障がい者スポーツや障がい者の社会参加に関する理解促進を図ります。</p> | | | |
| | <p>「パラウェーブNAGANO」プロジェクトとして、県内の学校に対し、県独自のコンテンツであるパラスポーツ体験型授業を提供し、共生社会づくりを推進します。</p> | <p>令和4年県障がい者共生条例が施行。主要なコンテンツであるスポーツを通じた共生社会づくりを加速する「パラウェーブNAGANO」プロジェクトを推進していくため。</p> | | |

基本目標 2 生涯を通じたスポーツ機会の充実

※太字下線部は現行計画からの修正又は追加箇所

| 2-1 ライフスタイルに応じたスポーツ活動の推進 | | | | |
|---|------------------------|---|---|--------|
| ○活用し更に高めていく主な「スポーツの力・価値」 | | | | |
| | 楽しさ・喜び ・自発性 | 他者を尊重し 協働する精神 | 健康増進 | 感動・一体感 |
| 5年後(R9年度)の 目指す姿 | 施策の展開 | | | |
| | 方向性 | 取組内容 | 備考(追加・修正等の趣旨) | |
| <p>・多くの県民が余暇時間を有効に使い、適性や目的等に応じて、家族や仲間とスポーツ活動を楽しんだり、スポーツイベントを観戦するなど、充実したスポーツライフを送っている。</p> | ライフスタイルに応じた「するスポーツ」の普及 | 2028年の信州やまなみ国スポ・全障スポの開催機運を活用して、スポーツに親しむ人口の拡大を図り、県民の健康づくりを推進します。 | 2028年に長野県で開催する国スポの愛称が決定したため修正 | |
| | | 県レクリエーション協会等と連携し、軽運動やニュースポーツなど、高齢者や障がい者も気軽にできる運動・スポーツを普及し、余暇時間におけるスポーツの習慣化を促進します。 | | |
| | | スポーツに関わる余暇時間が少ない世代が、できるだけスポーツに興味や関心を持てるような働きかけを行います。 | | |
| | | 働く世代 の健康増進のため、企業等と連携し、スポーツ機会の拡充を図ります。 | 「働き盛り」を「働く世代」へ修正（国の表記との整合） | |
| | | 運動時間が不足しがちな 子育て世代 が心身の健康を保つための運動など、ニーズや意欲に合ったスポーツ機会の提供を促進します。 | 「育児中の女性」から「子育て世代」へ修正 | |
| | | デジタル技術（リモート等）を活用したスポーツの場の提供により、新 時間・場所に関わらず、日々の生活の中にスポーツが取り入れられている状況を目指します。 | 新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、スポーツに親しむ機会が減少している状況下においても、デジタル技術等を活用したスポーツ機会の提供等により、各々のライフスタイルに応じて、スポーツ活動が継続できるようにすることが望ましいため。 | |
| <p>・デジタル技術を活用したスポーツの場の提供により、時間・場所を気にすることなく、日々の生活の中にスポーツが取り入れられている。</p> | 青壮年期のスポーツ活動の促進 | 生活習慣病予防のため、運動不足になりがちな 働く世代 が、日常的な運動に取り組めるよう、効果的な運動手法の紹介や、健診、保健指導の際の意識啓発を推進します。 | 「働き盛り」を「働く世代」へ修正（国の表記との整合） | |
| | 高齢期のスポーツ活動の促進 | 体を動かす楽しみや フレイル ・介護予防の観点から、高齢期におけるスポーツ活動が積極的に取り組まれるよう支援します。また、高齢者の身近な場所で運動を支援する運動支援ボランティアの育成を支援します。 | フレイル予防について明記（フレイル予防はACEプロジェクトの重点取組のひとつ） | |
| | | 体力的な理由等により運動・スポーツをすることが困難な高齢者に対し、スポーツ観戦やスポーツボランティアへの参加等のスポーツとの関わり方を普及し、スポーツが生活に潤いを与える社会の実現を目指します。 | | |
| <p>・プロスポーツチームの試合や各種スポーツ大会の観戦・応援などスポーツをみて楽しむ人が増加している。</p> | 「みるスポーツ」の普及 | 2028年の信州やまなみ国スポ・全障スポの開催機運を活用して、県民のスポーツを「みる」習慣化を促進します。 | 2028年に長野県で開催する国スポの愛称が決定したため修正 | |
| | | 県内で開催される世界大会や全国大会の情報を収集し、トップレベルの競技を身近で観戦できる機会の発信に努めます。 | | |
| | | 県内に本拠地を置くプロスポーツチームのファン・サポーターを増やし、県内で開催される試合の観戦者の増加を目指します。 | | |
| | | 本県出身のプロスポーツ選手やトップアスリートの活躍を広く県民に広報し、県民のスポーツへの関心度を高めます。 | | |
| <p>・スポーツボランティアとして地域のスポーツ活動を盛り上げるなど、スポーツを「ささえる」人が増加している。</p> | 「ささえるスポーツ」の普及 | 2028年の信州やまなみ国スポ・全障スポの開催機運を活用して、スポーツを「ささえる」人口の拡大を図ります。 | 2028年に長野県で開催する国スポの愛称が決定したため修正 | |
| | | 地域におけるスポーツイベントへのスポーツボランティアの参加を促進し、地域のスポーツクラブ等の活動の充実を図ります。 | | |
| | | スポーツボランティアの実施希望率が高い若者世代が、ボランティア活動に参加しやすい環境の整備を進めます。 | | |
| | | 障がい者スポーツの支援にスポーツボランティアとして参画する者が増えるよう、関係機関と連携して取り組みます。 | | |

基本目標 2 生涯を通じたスポーツ機会の充実

※太字下線部は現行計画からの修正又は追加箇所

| 5年後(R9年度)の 目指す姿 | 施策の展開 | | |
|---|-----------------------|--|---------------------|
| | 方向性 | 取組内容 | 備考(追加・修正等の趣旨) |
| ・障がい者の社会参加の推進と社会の障がい理解が促進され、障がいの有無に関わらず、スポーツを通じた交流が拡大されている。 | 長野県の特徴を活かしたスポーツの推進 | 県民が親しみをもって取り組んでいるスポーツ競技を推進し、多くの県民が生涯を通じてスポーツを身近に感じることができる環境づくりを推進します。 | |
| | 障がい者のスポーツ参加機会の拡大と理解促進 | 障がい者が、適性や目的に応じたスポーツ活動ができるよう、様々なスポーツの体験教室を開催します。 | |
| | | 多くの障がい者が参加できるよう、障がい者スポーツ大会を充実します。 | |
| | | スポーツを楽しむ、親しむ障がい者を増やすため 、スポーツ体験会やセミナーの開催を通じて、障がい者及び介護者等に対しスポーツの意義を啓発します。 | 取組の目的が明確となるように表現を修正 |
| | | ホームページ、県・市町村広報誌などを通じ、障がい者スポーツに関する情報の発信を行い、障がい者スポーツに対する理解を促進します。 | |
| | | 特別支援学校の生徒が、卒業後に継続してスポーツを行うことができるよう、特別支援学校と総合型地域スポーツクラブ等が連携して取り組めます。 | |

2-2 地域のスポーツ環境の整備

○活用し更に高めていく主な「スポーツの力・価値」



| | | | |
|---|--|--|--|
| ・スポーツ推進委員がコーディネーター役となり、それぞれの地域で、個々の目的や適正等に応じたスポーツ活動が活発に行われている。 | スポーツ推進委員の活動支援 | スポーツ推進委員が、学校、地域、スポーツ団体及び民間スポーツクラブ等の橋渡し役となり、地域スポーツのコーディネーターとして活動できるよう、市町村と連携して活動を支援します。 | |
| | 総合型地域スポーツクラブ等の育成と安定運営に向けての支援 | 地域のスポーツ活動を支える中核組織である総合型地域スポーツクラブの自立的な運営を 推進 するため、関係団体と連携し中間支援組織を 支援 します | 中間支援組織の確立を目指す段階から、その運営支援をしていく段階へと状況が変わったため、表現を修正 |
| | | 中間支援組織が実施する アシスタントマネジャー養成講習会等、総合型地域スポーツクラブの運営に関わる中心的人材の育成を支援します。 | 中間支援組織制度の開始に伴い、表現を修正 |
| | | 地域スポーツクラブ（総合型・スポーツ少年団等）の安定的な運営に向けて継続的に活動を支援し、市町村、長野県スポーツ協会、長野県スポーツ推進委員協議会等、各関係団体が連携した体制づくりを推進します。 | あらゆる世代のスポーツ機会の確保、部活動の地域移行等、地域スポーツクラブに期待する役割が大きくなる中で、各関係団体が連携し、地域スポーツ振興の担い手となる地域スポーツクラブの活動を活性化させる必要がある。 |
| | 地域スポーツ拠点のマルチ化 | 公民館、文化施設等において、従来から行っている生涯学習・文化・地域活動に加えて、スポーツ活動を行う取組を支援することにより、スポーツ無関心層等が気軽に参加できる環境整備を促進します。 | |
| | ・総合型地域スポーツクラブ、スポーツ少年団、社会体育団体やその他のスポーツクラブ等が、それぞれの地域で充実した活動を展開している。 | 地域スポーツ指導者の養成 | 県体育センター等の研修により、地域のスポーツ活動を支える指導者の育成を図ります。 |
| スポーツで活躍した選手やスポーツ指導法を学んだ大学卒業生が、総合型地域スポーツクラブ等においてスポーツ指導に従事できるような環境づくりを研究していきます。 | | | |
| 地域のスポーツ指導者相互の連携を図ります。 | | | |
| 各地域で障がい者スポーツを指導する人材を養成するため 、障がい者スポーツ指導員の養成講習会を開催します。 | | | 取組の目的が明確となるように表現を修正 |
| スポーツにおける安全の確保 | 県体育センター、長野県 スポーツ協会 、長野県障がい者スポーツ協会等が実施する各種研修の機会や「 長野県スポーツ医科学ネットワーク 」の活用を通じて、最新のスポーツ医・科学的知見に基づくスポーツ事故・外傷・障がい特性等に関する専門的知識の普及・啓発に努め、未然防止の取組を推進します。 | 「長野県スポーツ医科学ネットワーク」の活用について明記 | |

基本目標 2 生涯を通じたスポーツ機会の充実

※太字下線部は現行計画からの修正又は追加箇所

| 5年後(R9年度)の 目指す姿 | 施策の展開 | | |
|---|--|--|--|
| | 方向性 | 取組内容 | 備考(追加・修正等の趣旨) |
| <p>・長野県スポーツ医学ネットワークを活用し、アスリートだけでなく、地域住民も健康状態に応じて安全かつ効果的な運動・スポーツプログラムが日常生活に取り入れられている。</p> <p>・大規模改修時期を迎えた県有スポーツ施設が適切に改修され、誰もが利用しやすいスポーツ施設として整備されている。</p> <p>・障がいの種類、程度、適性や目的等に応じて楽しめるスポーツが普及し、それぞれに応じたスポーツを楽しんでいる。</p> | スポーツにおける安全の確保 | <p>市町村やスポーツ団体に対し、A E Dの設置の確認や不測の事態が生じた際に速やかにA E Dを使用できる体制整備を図るよう啓発します。</p> <p>スポーツとしての登山を安全に楽しむために、登山者が安全登山の知識や技術を能動的に学べる機会の提供等により、安全に登山が楽しめる環境づくりを推進します。</p> | <p>新型コロナウイルス感染症の感染拡大をきっかけとして、登山を安全に楽しめる環境づくりの必要性や関心が高まっている。</p> |
| | 「長野県スポーツ医学ネットワーク」の構築 | <p>各地域の医療関係者等の協力を得て、医科学サポートの提供が可能な施設・人材を発掘し、アスリートのみならず県民誰もが県内各地で医科学的なサポートを受けられるネットワーク体制の構築を目指します。</p> | <p>信州やまなみ国スポの開催に向けて構築する「長野県スポーツ医学ネットワーク」を、国スポ開催のレガシーとして、すべての県民が自身の技術向上や健康増進のためのサポートとして受けられるような体制の整備が求められる。</p> |
| | スポーツイベントの充実 | <p>「長野マラソン」、「長野県障がい者スポーツ大会」、「信州ねりんピック」等、広く県民が参加しスポーツに親しめるイベントの充実を図ります。</p> | <p>「信州チャレンジスポーツDAY」から「長野マラソン」へ記載を変更（「信州チャレンジスポーツDAY」は事業終了）</p> |
| | スポーツ施設の充実・維持管理 | <p>2028年の信州やまなみ国スポ・全障スポの会場地市町村と連携しながら、大会後も地域スポーツ拠点となる施設の整備を計画的に進めます。</p> | <p>2028年に長野県で開催する国スポの愛称が決定したため修正</p> |
| | | <p>県営スポーツ施設が、ニーズの変化に対応し、誰もが身近で安全に利用しやすい施設となるよう、ユニバーサルデザインの導入を積極的に検討するなど、利用者の意見に十分配慮しながら施設の充実と適切な維持管理に努めます。</p> | <p>「スポーツを通じた共生社会の実現」の観点から、表現を修正</p> |
| | | <p>体操等が気軽にできる場として都市公園等オープンスペースの有効活用を推進し、施設以外にもスポーツができる場を創出します。</p> | |
| | | <p>誰もが気軽にサイクリングを楽しめるよう、諏訪湖周にサイクリングロードを整備します。</p> | |
| | 県立武道館を核とした武道振興 | <p>県立武道館を核として、武道団体や各地の武道施設と連携し、武道の普及を図ります。</p> | |
| | | <p>全国大会を継続的に誘致し、トップレベルの選手を間近で「みる」機会を増やします。</p> | |
| | 地域における障がい者スポーツ環境の整備 | <p>スポーツ推進委員が、地域内で広く人々とスポーツを通して関わり、障がい者スポーツの普及や発展に努められるように支援します。</p> | |
| <p>総合型地域スポーツクラブが地域の学校や施設等と連携して、障がい者が参加するプログラムを実施できるような環境づくりを推進します。</p> | | <p>総合型地域スポーツクラブと地域の学校や施設との連携について明記</p> | |
| <p>障がい者が身近な場所でスポーツを楽しめるよう、県・市町村の運動施設での障がい者スポーツ用具の整備を促進します。</p> | | | |
| <p>障がいがあることを理由に施設利用が制限されることがないよう、施設管理者や職員の障がい者スポーツに対する理解を促進します。</p> | | | |
| <p>障がい者が身近な場所でスポーツを楽しめるよう、特別支援学校などの体育施設や競技用具の地域への開放を促進します。</p> | | | |
| <p>障がい者スポーツ地域コーディネーターが、障がい者スポーツを支える行政・関係団体・指導者等の協力を得ながらネットワークを構築し、障がい者が身近な地域でスポーツを楽しめるよう支援します。</p> | | <p>取組の目的が明確となるように表現を修正</p> | |
| <p>2028年の信州やまなみ国スポ・全障スポの開催を契機に、多くの障がい者が障がい者スポーツを生涯スポーツとして取り組めるような環境を整えます。</p> | | <p>大会後を見据えたあるべき障がい者スポーツの姿は、多くの障がい者が、身近な地域で生涯スポーツとして楽しむ環境を整えることであるため</p> | |
| スポーツを通じた共生社会づくり | <p>「パラウェアP N A G A N O」プロジェクトとして、障がいの有無にかかわらず参加できるスポーツ大会やイベント会場等でのパラスポーツ体験会等を開催し、共生社会づくりを推進します。</p> | <p>令和4年県障がい者共生条例が施行。主要なコンテンツであるスポーツを通じた共生社会づくりを加速する「パラウェアP N A G A N O」プロジェクトを推進していくため</p> | |

基本目標 3 全国や世界で活躍する選手の育成

※太字下線部は現行計画からの修正又は追加箇所

| 3-1 選手の育成強化、指導者養成による競技力向上 | | | |
|--|----------------------------|--|--|
| ○活し更に高めていく主な「スポーツの力・価値」 | | | |
| | 体力向上 | 夢・憧れ | 地域社会のつながり |
| | | | レガシー |
| 5年後(R9年度)の 目指す姿 | 施策の展開 | | |
| | 方向性 | 取組内容 | 備考(追加・修正等の趣旨) |
| <p>・オリンピックやパラリンピックなど、国際舞台や全国大会で活躍する本県選手が増加している。</p> <p>・2028年の信州やまなみ国スポでの天皇杯・皇后杯の獲得を目指す、本県の競技力が向上している。</p> | 2028年の信州やまなみ国スポに向けた競技力向上対策 | 2028年の信州やまなみ国スポでの天皇杯・皇后杯獲得を目指し、「長野県競技力向上基本計画」に基づき、関係団体とともに競技力向上対策を推進していきます。 | 競技力向上基本計画の策定を目指していた現行計画の内容から、それに基づいた対策の推進へと記載を変更 |
| | | 2028年の信州やまなみ国スポ・全障スポ開催後も競技力を維持できる選手の育成・強化体制の確立を目指し、 競技団体との連携を一層推進します。 | 競技力の向上に必須である競技団体との連携について記載 |
| | | 2028年の信州やまなみ国スポ・全障スポの開催を契機に、審判員や競技運営員等の スポーツを支える人材を地域に輩出する取組を推進 します。 | 国スポ開催後も見据えた記載に修正 |
| | | 2028年の信州やまなみ国スポに向けた指導者養成特別対策として、各競技団体の中央研修会への参加や公認指導者資格取得を支援し、指導力のレベルアップとともに持続可能な指導体制の確立を目指します。 | 6年後に迫った本県での国スポ開催に向けて、指導者のスキルアップ及び公認指導者資格を有した各種別の監督・コーチの確保が不可欠であるため |
| <p>・優秀な多くの指導者が遺憾なく力を発揮できる強化指導体制・環境が構築されている。</p> <p>・ジュニア選手の発掘育成や異種競技へのトランスファーなど、選手の持つ可能性を最大限に引き出す環境が整備されている。</p> | 指導者の養成と確保 | 全国障害者スポーツ大会で、本県選手が活躍できるよう選手の育成を行います。 | |
| | | 体育センターの研修を充実し、指導者の資質向上を図ります。 | |
| | | 長野県スポーツ協会と連携し、各競技団体が行う指導者育成を支援します。 | |
| | | アドバイザー・コーチの配置や強化指定指導者制度の創設など指導体制の強化を図ります。 | |
| | | 本県ゆかりのオリンピック等の協力を得て、指導者が参加する講習会の開催などを通じて、指導技術の向上を図ります。 | |
| | | 指導に係る情報交換や指導技術の共有化を図るため、各競技間における指導者の連携を深めます。 | |
| <p>・拠点を中心とした発掘・育成体制が整備され、競技人口の安定確保とともに、ジュニアアスリートの全国大会出場数が増加している。</p> | ジュニア選手の発掘・育成の推進 | 優秀な指導者が、県内に定着し、県内を拠点に活躍できる環境づくりを推進します。 | |
| | | 地域のスポーツ団体や競技団体及び小・中学校と連携し、長野県育ちのアスリートとなる子どもたちを発掘または適正種目への転向（トランスファー） ができる体制を整備します。 | 連携先に地域のスポーツ団体と競技団体を明記（現状との整合） |
| <p>・SWANプロジェクト修了生がオリンピックに出場し、メダルを獲得している。</p> | 女性アスリートへの支援 | SWANプロジェクト事業を推進し、世界で競える高い資質を持った人材を発掘育成します。また、同プロジェクトの共通プログラム等を他種目競技選手の育成にも活用します。 | |
| | 一貫指導体制の充実 | 女性特有の課題に着目した医・科学サポート等の支援方法の研究を進めます。また、女性指導者の育成に努めます。 | |
| | マルチサポートの推進 | 各競技団体が主導する多世代による一貫指導体制の拠点化を支援し、 公立中学校運動部活動の地域移行に向けた取組との連携を推進 します。 | 多世代一貫指導体制と部活動の地域移行は連携して取り組むことが必要であるため |
| | 冬季競技の強化 | すべての競技団体が日常の練習や強化合宿等において、スポーツクターや理学療法士などの医科学関係者からのサポートを受けられる体制の構築を目指します。 | |
| | | 競技者、指導者が体力や健康状態を正確に把握し、ドーピング防止等医科学の面からサポートします。 | |
| | | オリンピック等の国際舞台で活躍できるよう、冬季競技の選手強化と競技人口の拡大を支援 していきます。 | 目標が明確となるように表現を修正 |

基本目標 3 全国や世界で活躍する選手の育成

※太字下線部は現行計画からの修正又は追加箇所

| 5年後(R9年度)の 目指す姿 | 施策の展開 | | | |
|--|------------------------|--|--|---|
| | 方向性 | 取組内容 | 備考(追加・修正等の趣旨) | |
| <p>・すべての競技団体が、マルチサポート事業を活用し、競技者が良いコンディションで競技活動をしている。</p> <p>・スポーツに親しむすべての県民が県内のどこでも医科学サポートを受けられ、トップアスリートは最先端の科学的強化指導を受けられるなど、選手の練習環境や支援体制が整備されている。</p> | トップアスリートとの交流による競技意欲の喚起 | トップアスリートとの交流イベントやスポーツ教室等を開催し、子どもたちがトップスポーツへ夢や憧れを抱き競技に挑む意欲を喚起します。 | | |
| | 県立武道館を核とした武道強化 | 県立武道館にトップレベルの選手・指導者が参加する大会や講習会を誘致し、「みる」機会を充実させ、質の高い指導を行うことで競技人口の増加及び競技力の向上を図ります。 | | |
| | | 体系的な指導者育成・研修プログラムによる指導者養成を行うとともに、 総合型地域スポーツクラブやスポーツ少年団等の地域スポーツ団体との連携を図り 、適正で効果的な指導の普及を図ります。 | 武道強化に必須である関係団体との連携について記載 | |
| | 大学や企業との連携 | 県内の大学、企業、 医・科学関係機関等 と連携し、ICTや最先端のスポーツ医・科学を利用したトレーニングが受けられる体制を支援します。 | 連携先に 医・科学関係機関 を記載（現状との整合） | |
| | | 企業に対し、アスリートの 雇用 や障がい者スポーツ振興に対する支援の拡大を働きかけます。 | アスリートの「育成」から「雇用」へ表現を修正 | |
| | 先端技術を活用した競技力向上対策 | 部局間連携により、最先端の動作解析装置を活用した競技力向上対策の研究を行い、科学的根拠に基づいた育成強化に取り組みます。 | 動作解析の必要性は多くの競技において認知されており、全国でも数少ない動作解析装置を有する工業技術総合センターとの部局連携により、先端技術を活用した競技力向上を目指す。 | |
| | 障がい者アスリートの養成 | 「長野県スポーツ医科学ネットワーク」の新構築 | 県内どこでも医科学的なサポートを受けられるよう、医科学関係者をネットワークで繋ぎ、官民共同で県内全域をサポートできる体制を構築します。 | 本県は県土が広いので、スポーツ医科学拠点を一ヶ所に設置するのではなく、医科学関係者をネットワークで繋ぎ、官民共同で県内全域をサポートできる体制の構築を目指す。 |
| | | | 合宿（海外・国内）の参加経費 や競技用具購入、医・科学トレーニングに要する費用を助成し、競技力の向上を支援します。 | 支援内容の追加 |
| | | | 一般のスポーツ競技団体の指導者の障がい者スポーツに関する理解を深め、連携して競技力の向上ができる環境づくりを構築します。 | |
| | | | 障がい者スポーツ地域コーディネーターが、地域の障がい者スポーツの情報を集め、障がい者アスリートと指導者等とを結びつけ、 アスリートの競技力向上を図ります。 | 取組の目的が明確となるように表現を修正 |
| | | 障がい者スポーツの競技人口の拡大と障がい者スポーツに対する県民の理解や関心を高めるため、パラリンピック等での障がい者アスリートの活躍などを広く情報発信します。 | | |

3-2 スポーツ界の好循環の創出

○活用し更に高めていく主な「スポーツの力・価値」



| | | | |
|---|-----------------|--|--|
| <p>・長野県で選手が育ち、その選手が指導者となって次世代の選手を育成するなど、本県のスポーツ振興を支える好循環が形成されている。</p> <p>・高校・大学卒業後も地域や企業に支えられながら、競技と仕事をバランスよく両立できる環境が整っている。</p> | 県内を拠点とした競技活動の支援 | 県内を拠点として競技活動を続けるため、県内企業等に就職するアスリートを増やす「長野県アスリート就職支援事業」をさらに充実強化します。 | |
|---|-----------------|--|--|

基本目標3 全国や世界で活躍する選手の育成

※太字下線部は現行計画からの修正又は追加箇所

| 5年後(R9年度)の 目指す姿 | 施策の展開 | | |
|--|----------------------------------|--|---------------|
| | 方向性 | 取組内容 | 備考(追加・修正等の趣旨) |
| <p>・本県を代表するアスリートが、交流イベントやスポーツ教室などで県民と交流し、スポーツの魅力を発信している。</p> | <p>アスリートとの交流による県民スポーツ参加意欲の高揚</p> | <p>本県関係アスリートが参加して県民と交流するスポーツイベントやスポーツ教室などの機会を拡充する取り組みを支援します。</p> | |

基本目標 4 スポーツの持つ力の多面的活用

※太字下線部は現行計画からの修正又は追加箇所

| 4-1 スポーツツーリズムの推進による地域経済の活性化 | | | |
|--|------------------------------------|--|-----------------------------------|
| ○活用し更に高めていく主な「スポーツの力・価値」 | | | |
| 地域活性化 | | 地域社会の つながり | 経済発展 |
| 交流促進 | | | |
| 5年後(R9年度)の 目指す姿 | 施策の展開 | | |
| 方向性 | 取組内容 | | 備考(追加・修正等の趣旨) |
| ・長野県スポーツコミッションが核となり、全国大会・世界大会等の様々なスポーツ大会が県内各地で開催され、スポーツを通じた誘客による地域経済の活性化が図られている。 | 国際大会の事前合宿誘致を通じた地域経済の活性化 | 長野県の特徴を活かしたスポーツ大会・合宿等を誘致し、スポーツを通じた交流促進等により地域活性化を図ります。 | |
| 4-2 スポーツを通じた人々の交流促進 | | | |
| ○活用し更に高めていく主な「スポーツの力・価値」 | | | |
| 交流促進 | | 魅力発信 | レガシー |
| 異分野との連携 | | | |
| 5年後(R9年度)の 目指す姿 | 施策の展開 | | |
| 方向性 | 取組内容 | | 備考(追加・修正等の趣旨) |
| ・山岳スポーツやウィンタースポーツなどの長野県ならではの魅力あふれるスポーツを楽しむために日本全国・世界各地との交流が活発に行われている。 | 国際大会等の開催を通じた人々の交流 | 長野冬季オリンピック・パラリンピックのレガシーを最大限に活かした国際大会等を誘致し、世界の人々との交流や誘客を促進します。 | |
| | オリンピック・パラリンピック開催を契機とした韓国・中国との交流の継続 | 東アジアで連続して開催されたオリンピック・パラリンピックを契機とした韓国・中国との交流をレガシーとして引き継ぎ、スポーツを通じた両国との交流を更に発展させます。 | 東京、北京、両オリンピック・パラリンピックの終了に伴い、表現を修正 |
| | 信州ならではのスポーツの魅力発信 | 山岳スポーツやウィンタースポーツをはじめ信州で親しまれているスポーツの魅力を発信するとともに、より受け入れしやすい環境を整え誘客を促進します。 | |
| | 信州やまなみ国スポ、全障スポを通じた地域の活性化 | 銀座NAGANO等を活用して、信州ならではのスポーツの魅力発信を行います。 | |
| | | 信州やまなみ国スポ・全障スポの競技開催地において、当該地域の地域資源と合わせたスポーツイベントの開催等、魅力発信による地域活性化を図るとともに、 大会終了後もレガシーとして地域のスポーツ文化が根付いていくような取組を支援 します。 | 国スポ開催後も見据えた記載に修正 |
| 4-3 プロスポーツとの連携・協働の推進 | | | |
| ○活用し更に高めていく主な「スポーツの力・価値」 | | | |
| 他者を尊重し協働する精神 | | 感動・一体感 | 地域活性化 |
| 魅力発信 | | | |
| 5年後(R9年度)の 目指す姿 | 施策の展開 | | |
| 方向性 | 取組内容 | | 備考(追加・修正等の趣旨) |
| ・プロスポーツと連携・協働した事業が盛んに行われ、地域振興につながっている | プロスポーツとの連携事業の推進 | 「スポーツによる元気な信州づくり包括連携協定」を締結したプロスポーツチーム等と連携・協力し、その知名度・発信力を活かしたスポーツの振興、青少年の健全育成、人権啓発活動、県民の健康増進及び観光振興など地域の活性化を図る取組を実施します。 | |
| | | プロスポーツチームが実施する地域の発展に寄与する社会貢献活動等について広く情報発信します。 | |

基本目標 4 スポーツの持つ力の多面的活用

※太字下線部は現行計画からの修正又は追加箇所

| 4-4 運動・スポーツを通じた健康長寿社会の実現（新） | | | | |
|--|----------------------------|--|--|------|
| ○活用し更に高めていく主な「スポーツの力・価値」 | | | | |
| | Well-being | 健康増進 | 健康長寿社会 | 魅力発信 |
| 5年後(R9年度)の 目指す姿 | 施策の展開 | | | |
| | 方向性 | 取組内容 | 備考(追加・修正等の趣旨) | |
| <p>・フレイル予防や地域コミュニティの弱体化等、様々な社会問題へスポーツの力が多面的活用され、課題解決に寄与している。</p> | <p>運動・スポーツを通じた健康づくりの推進</p> | <p>「信州ACEプロジェクト」を推進し、運動の重要性や手軽に毎日取り組める運動の具体的手法を広めることにより、生活習慣病予防を始めたとした県民の健康づくりを推進します。</p> | <p>新型コロナウイルスの影響で様々なスポーツ活動が制限されたことにより、体力の低下やストレスの増加といった心身の健康保持への悪影響が生じた一方で、その反射的な効果として、運動やスポーツを通じた健康づくりの重要性が再認識された。</p> | |
| | | <p>2028年の信州やまなみ国スポ・全障スポの開催機運を活用して、スポーツに親しむ人口の拡大を図り、県民の健康づくりを推進します。</p> | <p>(基本目標 2 からの再掲)</p> | |
| | | <p>働く世代の健康増進のため、企業等と連携し、スポーツ機会の拡充を図ります。</p> | <p>(基本目標 2 からの再掲)</p> | |
| | | <p>運動時間が不足しがちな子育て世代が心身の健康を保つための運動など、ニーズや意欲に合ったスポーツ機会の提供を促進します。</p> | <p>(基本目標 2 からの再掲)</p> | |
| | | <p>生活習慣病予防のため、運動不足になりがちな働く世代が、日常的な運動に取り組めるよう、効果的な運動手法の紹介や、健診、保健指導の際の意識啓発を推進します。</p> | <p>(基本目標 2 からの再掲)</p> | |
| | | <p>体を動かす楽しみやフレイル・介護予防の観点から、高齢期におけるスポーツ活動が積極的に取り組まれるよう支援します。また、高齢者の身近な場所で運動を支援する運動支援ボランティアの育成を支援します。</p> | <p>(基本目標 2 からの再掲)</p> | |